

平成27年1月23日発行 第168号

こうりく町 議会だより

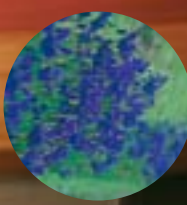
町勢
世帯数／1,100世帯
人 □／3,205人
(平成27年1月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ



同窓会ごっこ～未来の自分へ～

江府小学校 6年生学習発表会

12月定例会	2P～3P
各組合議会等報告	4P
いっばん質問 町政を問う	5P～7P
地方行政調査	8P～11P
所管事務調査	12P～13P
私のひと言	14P

12月定例会

一般会計2912万円減額

予算総額 39億4762万円に

補正予算

一般会計

主な内容

●諸支出金

財政調整基金積立金

4000万円減額

除雪経費の国の交付金が1588万円減額となり、旧中学校体育館取り壊し補助金が、建替でないため補助対象とならず1589万円の減額などにより、基金積立金を取りやめてこれらの財源に充てたもの。

平成26年12月定例会は8日に招集され、会期を12日までの5日間と定めて開かれました。
今回の定例会には、平成26年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例改正など13議案が提出されました。
議会ではこれらについて慎重に審議した結果、いずれも原案どおり可決しました。
9日の本会議では3名の議員が一般質問に立ち、町政について活発な議論を展開しました。



旧江府中学校解体



旧御机分校

●総務費

443万円増額

若者定住等総合対策補助金として深山口と宮市集落へ助成するもの。

●民生費

874万円増額

生活保護扶助費は医療費増による。

223万円増額

障害者居宅サービスの増により介護給付費・訓

練等給付費が増

635万円減額

児童館改修取りやめによる。

●農林水産業費

497万円増額

奥大山農業公社振興補助金増額による。

595万円減額

俣野福谷奥カゲの間伐持ち出し取りやめによる。

条例改正

▼江府町国民健康保険条例の一部改正について

この条例は出産育児一時金を39万円から40万4千円に増額するものである。平成27年1月1日施行。

その他

▼旧御机分校の指定管理者について

旧御机分校は、大山西や春から秋にかけ訪れる画家や写真家の休憩所として、トイレや炊事場が整備された。この施設を御机集落に指定管理してもらうものである。指定期間は、平成26年12月22日から平成32年3月31日までとする。

▼神奈川財産区の財産処分について

荒田川の砂防堰堤工事に伴い、土地約16000㎡、立木1144本を売却するもので価格は土地約500万円・立木約350万円である。

第8回臨時議会
10月27日

条例制定

◎一般職の任期付職員採用等に関する条例制定

◎学校給食センター新築工事3件

◎道の駅新築工事1件

◎任期付職員人件費等

補正予算

以上6議案を可決した。

第9回臨時議会
12月1日

専決処分 補正予算

◎衆議員議員選挙費

508万円

条例の一部改正

◎人事院勧告による職員給与に関する条例の一部改正、常勤特別職および教育長の給与・旅費に関する条例の一部改正、議員報酬・費用弁償に関する条例の一部改正ほか11議案を承認・可決した。

陳情の審査結果

提出のあった陳情は、12月定例会で審査した結果、以下のとおりとなった。

件名	提出者	審議結果	理由
「特定秘密の保護に関する法律」の廃止を求める陳情	憲法改悪反対鳥取県共同センター 代表 田中 暁	不採択	我が国の安全を守るために必要な法律であり、その運用についても十分配慮していると考えます。
軽度外傷性脳損傷の周知及び労災認定基準の改正などを求める陳情	軽度外傷性脳損傷仲間会 代表 藤本久美子	趣旨採択	外傷性脳損傷の診断や法律の改正を行い患者を救済する方向性が出て来た為。

第58回町村 議会議長会 全国大会

11月12日、東京NHKホールに於いて約1700名の町村関係者の出席で開催された。来賓として、石破大臣をはじめ衆参両議院の各議員の参列をいただきました。

- ① 東北被災地の復興を加速させる。
 - ② 町村が安定的な行財政運営を行う為の税財源を確保すること。
 - ③ 「地方創生」を進め地方の意見に耳を傾けること。
 - ④ 残された分権改革を進め、道州制の導入反対。
 - ⑤ 全国の豪雪地帯の振興発展。
- 以上の議案を満場一致で承認・可決した。

日野町江府町 日南町衛生 施設組合 議会報告

清化園は、し尿処理施設としてスタートしたが下水道汚泥が増えたことと老朽化により、総事業費約16億円を見込んで新しい施設「汚泥再処理セ

ンター」への建替が決まっている。本年度は設計委託、平成27年度から平成29年度にかけて建設の予定である。

そのため今回同じ処理方法で新設し、本年から稼働している四万十町汚泥再処理施設「若井グリーンセンター」を11月26日〜27日に視察研修した。



四万十町若井グリーンセンター視察

最新の施設であり、臭気対策など環境に配慮した施設であった。

日野病院組合 議会報告

第3回定例会

◎職員の新任用に関する条例の制定（60歳定年職員）

・任期の末日は年齢65歳に達する日以後の最初の3月31日以前

◎勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正。

・再任用短時間勤務職員に係る勤務時間について

◎職員の給与に関する条例の一部改正。

・55歳を超える職員に係る昇級抑制措置（人事院勧告に基づく）

上程された議案はすべて可決した

第4回臨時会

◎職員の給与に関する条例の一部改正。

◎日野病院事業会計補正予算。

可決
可決
可決

全国過疎地域 自立促進連盟 第45回総会

11月14日東京芝のメルパルクで総会が開催された。

過疎地域自立促進特別措置法が本年から6年間延長の改正がされ、国の予算として、昨年より550億円増の3,600億円となった。過疎地域には大変ありがたい政策である。今回の改正で建物の解体など利用でき、当町の事業に活用したい。

西部広域 行政管理組合

11月19日

平成25年度歳入歳出決算65億7千万円を認定した。

主な決算項目

衛生費

21億円

（火葬場費等1億3千万円）
（可燃ごみ費等19億9千万円）

消防費

35億9千万円

公債費

5億9千万円

あなたも議会を傍聴してみませんか

詳しくは議会事務局へ 電話番号75-3307

一般質問

町政ここを問う

一般質問は3人の議員が行い、町長の方針をただした



竹茂 幹根

給食センター 移転の理由は

問	答
町消防団全国大会参加応援のあり方は	町民を代表して議員の皆さんに応援をお願いした

質問 先般東京での全国操法大会で準優勝の栄、誠にめでとございませす。しかし、議員全員の応援予算を立てた事について、明確に説明できるよう伺う。

町長答弁 先般の全国操法大会で準優勝、過去2回優勝の歴史もあります。

町民の代表である議員の皆さんに応援に出かけていただいて、町民総ぐるみの応援姿勢を示すために、9月に補正予算を

組ませていただき、費用的にも50万円を切る出張公費の支出です。このあたりについては、多くの町民の皆さんのご理解が得られると思います。

問	答
給食センター移転の理由は	0157発生以降安全安心なドライ施設へ

質問 町長は老朽化のためと言われるが、給食センター新築移転の見解を伺う。

町長答弁

学校給食センター移転は総合計画の中できちんと位置づけながら、建物の老朽化ではなく、0157発生当初から施設を



江府小学校ランチルーム みちくさとの交流給食会

湿式からドライ方式に切り替え、安心安全な食を提供していくと云う事でありませす。

費用の2億7千5百万円は、元気な交付金、過疎債など使わせていただいて、一般財源を使わないうよう極限努力します。

問	答
小学校での放課後活動と管理体制は	放課後子供教室で学習・交流活動を

質問 小学校の放課後のクラブ活動はどういう形で行われているか、又管理体制について伺う。

教育長答弁

小学校はクラブ活動はしていません。学校教育の一環として、水泳練習、陸上練習、音楽練習等教職員が指導しています。

低学年は概ね3時のバスで帰ります。ご存じのように、希望する児童を対象にランチルームを解放し、学校とは切り離れた管理運営をし、安全管理委員、コーディネーターの指導のもと、放課後子ども教室として学習や交流活動をしています。

下校時はバス乗り場の防炎情報センターまで送り届けています。

民俗資料館の開館と 江美城跡の公園化について



三好 晋也

問
民俗資料館の開館は

答
開館に向けて再検討

質問 昭和54年に開館になった江府町民俗資料館は、現在閉館になっていきます。展示内容の充実を図り、常時公開できる環境を整え広く町内外の人に観ていただくべきと考えます。又、江府小学校の生徒を対象に校外学習の一環としてこの民俗資料館を見学させてはいかがでしょうか教育長の見解を伺う。

教育長答弁

民俗資料館は郷土を中心とする文化財などを収蔵し、この一部を公開展示することで、町民の教

育や学術文化の振興に寄与することを目的として昭和54年に建設された。平成17年度までは、町内外の希望者に随時開館を行ってきましたが、来館者の低迷と収蔵物に関する専門知識を持った職員がいなかったことから、現在は休館としています。しかし、休館後も外観のすばらしさから県内外から、収蔵物についての問い合わせや入館依頼があり、昨年度から開館に向けて再検討を始めたところです。小学校の校外学習による資料館利用については、館内を見学することはできませんが収蔵物や展示物について解説できる者がいない。現状では学習の一環とはなりにくいと考えます。まず、

専門の職員を雇用するかボランティアガイドなどの育成を検討しなければならぬと考えています。

問
江美城跡の公園整備は

答
民俗資料館の開館後検討したい

質問 江美城跡の公園化整備について伺います。現在江美城跡には私有地もあると聞いておりますが、その一帯を借り上げまたは買い上げて、民俗資料館とあわせて公園として整備し、観光客の誘致につなげるべきと考えますが町長の見解を伺う。

町長答弁

江美城跡を中心として公園化することは非常に重要であります。江美城跡を公園化するためには、町民や観光客が寄りやすいように駐車場用地の確保や案内看板の整備などの周辺整備が必要になってきます。従いまし



江美城

て、資料館の開館を優先にして開館できる見込み

が立った上で、計画を検討したいと考えています。

小江尾工業団地の現状とゆくえ



三輪 英男

問	工業団地の現状とゆくえ
答	J Aの育苗センターや公共事業の残土置き場に貸出し

質問 小江尾工業団地は企業誘致を目的に造成されたが現在まで企業進出がなく2.8 haの環境も悪化して来ている。現状と今後の対策について伺う。

町長答弁 現在は、J Aの育苗センター及び公共事業関連の残土置き場に貸し出しています。企業誘致は時代背景も変わり難しい時代になり、町村の規模から鳥取県西部地区で誘致を考えるようになっていきます。今後、町内には女

性の働く場が広がっていくことが重要と考えています。ただ、現実には厳しいのが実情です。町では現在公共施設の在り方についてプロジェクトを設け検討しており、工業団地をどうするのかは、用途変更も含めてその中で方向を決めていきたい。

問	下蚊屋ダムの水質汚濁について
答	県と町でプロジェクトを組み調査している

質問 下蚊屋ダムの水質汚濁によるとみられる、下流集落の水質汚濁が発生したことへの因果関係について町長の見解を伺う。

町長答弁 下蚊屋ダムは国営事業で建設され、大山の裾野にある1市3町に灌がい用水を供給しています。このダムには、笠良台地の雨水を集める本谷川と細谷川が流れ込んでいます。問題となっている水質汚濁は、笠良台地の黒ぼくが雨によって流失しダムにたまり、長期間下流域に流れ出てくるというものであります。現在、国の責任でダムの中の黒ぼくを含んだ水の状況調査を行っています。

町長答弁 黒ぼくの流失を防ぐ対策は現在、県と町のプロジェクトで取り組んでいます。ほ場整備して勾配を3%以下にすればよいと言われますが、実際にはそれでも流失しています。そこで岡野農場にも協力させ試験ほ場を作り、ある程度広い芝生の畦畔で食い止められないか試験しています。いずれにしても、農家の声を聴き対応していきたい。



小江尾工業団地

問	農業公社の経営状況は
答	財政支援も限度

して責任を感じています。自助努力が基本と考えていますが、米価の下落等厳しい状況です。農家の高齢化が進み、現時点で、11 haの請負希望があります。しかし公社の経営を考え、5 a以上受託しておられる方が町内20名近くおられ、その面積が61 haです。この方達に何とかお願いできないか指示しています。また、地域おこし協力隊などの制度を利用し、経営改善に取り組んで行き

質問 農業公社は農家にとって必要なものである。しかし、近年赤字が続く町の支援で何とか運営されている。今後、公社が存続して行く為に思い切った構造改革が必要と考えるが町長の考えを伺う。

町長答弁 農業公社の運営について財政投資を含め、町と

たい。

地方行政調査報告

人口減対策・農業
の取り組み・道の
駅について

北海道
京極町

「概要」

京極町は札幌市の南西約77キロに位置し、羊蹄山のすそ野に広がる面積231km²、標高230mの町である。日本百名山の1つ羊蹄山からは、名水百選に選ばれた豊富な湧水があり町営の「ふきだし公園」など、多くの観光客が訪れている。

昭和37年合併当時の人口は6500人であったが、平成26年には3,229人となり人口問題は重要な課題となっている。京極町では人口対策として、産業の育成・魅力ある教育・住宅政策を行っている。

〈産業の育成〉

京極町は、羊蹄山のすそ野にあり丘陵地となっていることから、水稲には不適であるが畑作には適している。その為、開拓当初から馬鈴薯、小麦、砂糖大根、ニンジン等を

栽培してきた。

平成14年に「誇りと意欲をもって経営の改善発展に取り組むプロの経営者としての自覚を高め京極町農業の発展に寄与すること」を目的とし、京極町認定農業者協議会が設置された。農家戸数100戸のうち、40戸が認定農業者会員となっており一戸当たりの平均耕作面積23ha、平均売上高6千万円と大規模であり地域の重要な基幹産業となっている。

また、京極ふきだし湧水を産業資源として活用した、北海道ミネラルウォーターや京極製氷などの事業所も雇用の場となっている。

観光・商業においては、近隣にニセコや支笏湖があり町営のふきだし公園には、年間70万人が訪れている。



道の駅名水の郷きょうごく



京極町視察研修

〈魅力ある教育〉

京極町には小学校2校、中学校1校があり古くから教育熱心な土地柄で、町では独自の奨学金制度を設けている。また小学校への通学は、スクールバスの運行によってきめ細やかな送迎を実現している。高校は無いが隣接する高校へ通学する生徒に通学費の助成を行い、高校が無いことに対して不便を感じさせない環境を作っている。また小学校・中学校の副教材を全て無料にするなど教育費の支援を行っている。

「一人一人の学びたい意欲にこたえる」をスローガンに住みやすさと共に充実した学びが町づくりの目標となっている。

〈住宅政策〉

京極町では、平成25年から町内に住宅を新築して定住する人を対象に1戸当たり100万円の補助を始めた。この補助制度は5年以内に、永住を前提に町内で住宅を新築する人が対象で移住者と町民も対象となっている。

また、町の宅地分譲もスタートし1坪1万円の価格とし安く提供している。土地の購入から3年以内に住宅を建てること
が条件で、これも移住者町民共に対象となっている。

宅地面積は約115坪となっており100万円の補助を使えば、実質的には、ほとんど無償で土地が購入できる。このため平成25年度分譲8戸は完売となり、平成26年度は6戸を予定している。

〈道の駅〉

平成19年、道の駅として「名水の郷きょうつぐく」が登録され、年間約70万人の観光客が訪れている。もともと、ふきだし公園として古くから整備されていたが、平成3年に物販施設として「名水プラザ」がオープンし指定管として運営されている。

周辺には、公園や展望台、遊戯施設、温泉、キャンプ場、パークゴルフ場等多くの施設がある。近隣に二七コヤ洞爺湖、登別温泉など有名な観光

地があり、千歳空港を空の玄関とした道南の観光ルートとなっている。

物販施設の「名水プラザ」は、名水を使ったミネラルウォーターやコーヒー、コーヒゼリー、「京極酒」などの特産品やラーメン、そば、ジンギスカンなどを販売している。

年間売り上げは約1億円、収支はトントンという事である。実際に商品を見たが、特にこれといった人気商品が目につかず、途中立ち寄った道の駅「望羊中山」との差を感じた。ちなみに、「望羊中山」は、中山峠の好立地にあり年間400万人が訪れている。ここではあげいもやソフトクリームが人気商品となっていた。



人口減対策・ 議会改革の取り組み

北海道 白老町しろおい

〔概要〕

白老町は、苫小牧市と室蘭市のほぼ中間に位置し、人口約1万8千人の町である。面積は約425km²で東西に細長くのびている。町の面積の約75パーセントを森林が占め、海、川、山と様々な自然にあふれた街です。

気候は穏やかで夏は涼しく冬の積雪もあまり多くない。数々の名馬を輩出した有名な白老ファームがあることでも知られている。畜産が盛んで白老牛のブランドで全国に牛肉を出荷している。

また日本製紙の工場があり最大の産業となっている。

観光では、2020年に国立博物館開設が決定したアイヌ民族博物館ポロトコタンが有名である。



ポロトコタン（大きい湖の集落）

〈人口減対策〉

白老町の平成25年の出生数は80人、死亡者数は316人で232人の自然減となっている。

人口減対策の一つである観光では、現在年間約100万人が訪れているポロトコタンの国立博物館開設に向け、近隣地域とのネットワークの形成を目指している。

特徴的な事業として「子育て世代住宅建築応援事業」がある。町の分譲宅地の購入費用の全額を補助するものです。対象は高校生以下の子供を持ち、世帯主が45歳以下で2年以内に住宅を建築すること、住宅の建設にあたっては町内業者を利用することが条件であり、移住者・町民とも対象となる。

平成25年には10戸、平成26年は20戸の予定となっている。土地購入費の内50万円は地元商工会の商品券で支給し、後は現金となっている。



白老町視察研修

〈議会改革〉

白老町は夕張市に次ぐ財政赤字を抱えた為、平成8年、民間委員10名による「白老町行政改革委員会」が設置された。

この答申において「議会運営全般にわたって見

直し」が提起され平成9年、議会は「議会改革等に関する検討小委員会」を設置し取り組みが始まった。

議会改革に関する町民意見懇談会を行いながら、現在も改革を続けている。

・第1次議会改革（平成10年～平成14年）

1. 政策能力向上
町の計画、構想など政策形成過程の段階から、各常任委員会が所管事務調査として取り上げるとともに、町にも議会との協議を要請する。

2. 町民に親しまれる議会

各常任委員会が地域に出向き、要望や調査を行い終了後、懇談会を実施し議会を身近に感じてもらおう。

3. 倫理条例の制定

議員のモラル向上と信頼を回復するため平成11年倫理条例を制定。

・第2次議会改革（平成14年～平成18年）

1. 議会機能の充実と議員の政策論議の活発化
議場にパソコンを導入。また、一般質問の1回目の答弁書を議員に配布することとした。

2. 町民に開かれた議会（つくり）

本会議のインターネット中継の開始。議会単独

のホームページ開設。
各委員会で傍聴者との懇談会を開催。

3. 白老町自治基本条例の制定

「町民・議会・行政のそれぞれが策定部会を組織し、役割と責任において条例の骨子素案を策定し、町民への中間報告を経て、最終的に一本の条例とする。」とした町の方針が出された。

基本条例の原則は、「協働の町づくり」であり、その為の二本柱は「情報共有の原則」と「住民参加の推進」であった。

議会はこれを受け議員全員による特別委員会を設置し、19回の議論を経て、平成18年12月議会において「白老町自治基本条例」を制定した。この中で、議会の責務として「不断の議会改革」を定め議会運営のあるべき姿を示した。

・第3次議会改革（平成19年～現在）

1. 議員定数の削減
平成19年、議員定数に

ついて町内7か所において町民報告会を開催し町民の意見を聞いた。意見は二分していたが議会として20名から16名に削減することとした。その際、

議会機能の低下を招かないよう、仕組みを整えた。その1つが「広報広聴常任委員会」を設置し、議会報告会・懇談会の定期開催、分科会による各種団体との懇談実施など、常任委員会の活動として様々な議会広聴を行うこととした。

2. 通年議会の導入

白老町議会は第1次改革から、常任委員会の不断の所管事務調査が重要として取り組んでおり、その為に各委員会がいつでも開け、また公式の会議となる様、通年議会を導入した。

3. 議会懇談会の定期開催

年1回9月に3班編成（5人）で町内9か所開催。

4. 議会報告会の定期開催

年1回5月に2班編成

（8人）で町内8か所開催。

5. 政策研究会の設置

町の問題を深く調査研究し、政策提言を可能にするため、今までの常任委員会とは別に、議員全員で組織する政策研究会を設置した。これは、議会全体に諮るべき事項について扱う会であり、特に重要事項については、ここで行っている。

【考察】

(1)人口減対策について
人口減対策は、今や国を挙げての大問題となっており、特に地方の町村にとっては、存続のかかった重い課題である。昨年度の若者定住に続き、今年度は、この課題について北海道の2町を視察した。特徴のある施策としては、両町とも住宅取得における宅地に対する補助である。この政策に対しては、すぐに予定以上の応募があり効果が出ている。ただその根底には、就労の場や、教育環境など、総合的な施策がある

ためと考えられる。
今後、江府町の人口減対策に関し総合的に見つめなおし、出来る施策から一つずつ実行していくことが必要である。

(2) 農業の取り組みについて

京極町の農業は、規模が大きく後継者も育っており町の基幹産業となっている。レポートにも書いたがあまりにも規模が違つると、畑作中心であり、直接参考にはならなかった。ただ、若手農家が一つの組織になって協力しているのは、成功の理由の一つと思われる。

江府町では、米が中心であり規模も小さいが、農業を持続させるには、農家の担い手が、一つの組織を作りみんなで知恵を出し合っていくことが一つの道かと考えられる。

(3) 道の駅の取り組みについて

今回2つの道の駅を訪れたが、それぞれに特徴があった。中山峠の「望羊中山」は、ほおつてお

いても観光客がここを通る道路沿いにあり、立地条件に恵まれた道の駅である。もつ一つの「名水の郷きよつぐく」は、羊蹄山と湧水を、町が観光地として整備し、総合的魅力で観光客を呼び込んでいる。

江府町の道の駅は、道路沿いに整備され、通行客を中心に計画されている。この通行客をいかに呼び込むか、中山峠の「あげいも」のような、江府町の道の駅と言え、すぐにこれと思ひ浮かぶ「人気商品」の開発が必要と思われる。

(4) 議会改革について

議会改革で有名な白老町の中心人物である、議運委員長 大淵紀夫氏から直接話を聞くことができた。当選10期のベテラ

ン議員で76歳とは思えないエネルギーで熱い語り口に、議会にかける強い思いが伝わった。

白老町における現在の課題は、政策提言能力を強化することと住民の信

頼を得ることであった。江府町議会の現状と比較して、大きな課題は議会を映像で情報提供することと、1年を通しての委員会活動を行う事により、行政の監視機能・市民の意見聴取・議会としての政策提言を行うことと思われる。

議会の映像での提供は、光ボックスを利用して実現すべく計画が進められており、早い実現を期待したい。

江府町の委員会活動は、現在1年に1度11月に町内事務調査を行っているが、これを通年で行い、その中で必要なものは議会全体として政策提言できるとする仕組みが必要と考える。

やるべき課題は多いが、一つずつ取り組んで行くことが重要である。



「江府町議会議員の政治倫理審査会」の経緯と結果報告

- 4月28日：4月24日の特別委員会の中で竹茂議員の発言中、田中議員から「冷静になれ、のほせるな」との発言により侮辱されたとして、133条の処分の申し入れがあった。
- 5月12日：正副議長、事務局長が当事者兩人から状況を聞き、今後の議会の在り方を協議することとした。
- 6月11日：定例会の会期中に全員協議会を開き協議した。その結果は侮辱には当たらないが、議会運営をスムーズに行うため、野次は飛ばさない・発言者も簡潔に発言するよう確認した。(竹茂議員は急遽葬儀のため欠席)
- 7月31日：竹茂議員から議会運営委員長に「申入書」が提出された。
- 8月19日：議会運営委員会を開催し、この件に関し再度全員で協議することとした。
- 8月20日：竹茂議員より議長宛に政治倫理審査請求書が提出された。
- 8月22日：議運の委員長から竹茂議員の「申入書」に対し、侮辱には当たらないが議会運営について協議すると回答。
- 9月17日：議員全員の事務協議会を開き、侮辱には当たらないが今後議員が良識を以て議会活動するよう確認。
- 10月14日：江府町議会議員政治倫理審査会開催。
- 11月5日：竹茂議員に調査報告書を提出。
- 12月10日：全員協議会を開き、調査報告書に対し議論し議会として真摯に受諾する事とした。

平成26年10月31日

調査報告書

江府町議会議員政治倫理審査会
会長 佐々木 満

平成26年10月3日議長から政治倫理審査会に調査請求のあった案件について、平成26年10月14日江府町議会議員政治倫理審査会を開催し調査した。調査の結果は、田中議員の野次により侮辱を受けたとして江府町議会議員の政治倫理に関する規則第3条の規定により調査請求されたが、状況報告と会議録音テープを精査した結果、審査委員会は侮辱に当たらないと判断した。よって江府町議会議員政治倫理条例第3条第1項(1)に該当しない。

また、これは議会活動の一部であり議員のやり取りの中で起こったことであるので、見識ある江府町議会の中で納めることを要望します。

所管事務調査

総務経済常任委員会

調査日 平成26年11月18日

(1)財政改革の状況と現在行っている主な事業の状況(平成25年度数値)

一般会計性質別歳出のうち、前年に比して人件費は微減、補助費については3000万円の減額となった。

物件費は中学校の備品

購入等で4000万円の増加、扶助費も増加、維持補修費が県道の維持費の負担等で増加、その反面、公債費は6000万円強の減額になった。その分積立金は3500万円増額となり、財政健全化がさらに進むことな

った。引き続き努力されたい。

(2)災害による復旧工事の状況(久連・川平)

(イ)保育園上側の急斜面崩壊の箇所は工事完成

(ロ)川平の復旧治山事業

小規模砂防事業の平成25年度事業は終わっている。平成26年度事業については、近藤家(日野町)のたたら場跡が工事個所内にあるため、文化財団の調査終了を待つて拡幅工事等、平成26年度内の完成を目指す。

(3)子供の国保育園厨房増設工事の進捗状況

(イ)工事の規模
園舎RC造 平屋建
延面積
1100.49㎡

内厨房増築面積 40.14㎡

(ロ)工事の概要

厨房増築 改修及び遊戯室床改修 空調改修

「考察」

厨房器具の一部は以前から使用しているものもあり、度々改修が望まれていた。また、食材搬入口も狭く、かつ不便であったので広い厨房となり、園児の食育、安全等何より喜ぶたい。

(4)旧江府中学校校舎の解体工事の進捗状況

(イ)工事はほぼ完了している。

跡地は思った以上に広いのには驚いたが、今後の有効活用についてはしっかり検討していきたい。

(5)奥大山新水源取水施設工事の進捗状況

(イ)工事の進捗状況は、11月18日現在約90%、完成深度151m
揚水量毎分350〜750ℓ、平成27年3月末の完成予定。

(6)㈱サンエス

「奥大山のおいしい水」

3ガロンボトル、バッグインボトル10ℓ、20ℓ、ペットボトル12ℓを生産、売上高は前年比(2013/11〜2014/10)121%と順調に売り上げを伸ばしているが、当面、従業員5名体制で増員の予定はないとの事。

(7)㈱グリーンステージ

2006年4月1日操業以来9年目を迎え大きなトラブルもなく今日に至る。

コンビニ等で人気のカウターコーヒー用カップ水を製造するための設備導入を行い、業績をアップ。本年の推定生産重量は、過去最高だった、2008年に匹敵する3888tの見込みとの事。

一番の課題は、かつて17名いた従業員も現在工場従業員6名、営業1名の7名で操業。これは全て地元の社員とのこと。また来年、町内出身の高卒を2名内定済みであること聞く。更に増員すること

なると、冬場の閑散期の対応として、奥大山スキー場に派遣していたが、今後とも今まで以上の派遣となるか、また冬場だけでなく農業・畜産関係で派遣出来るかどうか今後の課題である。町としても協力できることがあれば、検討されたい。

(8)㈱サントリー

新設井戸のうち、9号井戸は来年から使用開始10号井戸についても今年中に試掘、本掘も終わりで、2015年以降には使用できる見通し。

また、生産効率をアップすることに、揚水量が減っても生産量はアップする体制が出来つつある。

雇用状況は、現在68名で操業。サントリーホールディングからの出向を減らし、サントリープロダクツの正社員の比率を高める計画である。

今後の地元採用の増大に期待したい。



奥大山新水源取水施設 (エバーランド奥大山)

所管事務調査

教育民生常任委員会

調査日 平成26年11月13日

調査内容

江府中学校

生徒数の予測

今後の生徒数の推移
平成26年全校数60名で
あるが、平成31年からは
4月から新しい学校と
してすばらしい環境の中、
スタートした。学校図書

60名を割り込み、10年後
の平成36年には大幅な減
少が予測される。
(考察)



子供の国保育園

の充実を願う専任職員
の配置、安全面から通学路
の街灯の増設などを検討
されたい。

江府小学校

今後児童数の推移予測

平成26年度児童数11
5名。来年度は入学予定
者10名で児童数99名にな
る。以後10名から18名の
入学が予定される。
(考察)

プール設置から41年も
経過し、老朽化が進んで
いる。安全面からも早急
に対応を図られたい。

子供の国保育園

今後の子供の数の予測

平成26年度は町内乳幼
児数87名である。園児数
は平成26年11月現在、61
名である。平成27年は若
干の上昇傾向がうかがえ
る。
(考察)

長年の要望であった厨
房の全面改修が行われ、
衛生面からも安心安全に
向けて前進があると思え

る。一つの契機として保
育園の一層の充実を願う
ものである。

社会福祉協議会

社会福祉協議会は江尾

の中心に移転をし、住民
とのふれあいに、力を入
れている。はやく移転が
周知され成果が出ること
を期待する。
(考察)

地域福祉の拠点として、
今後の活動が注目される。
福祉分野の仕事も多様化
しているが、ニーズを的
確にとらえ、人材確保の
ための予算を検討されたい。

いこいの広場

「らんちゅう」

平成25年10月に開業し
一年が経過した。当初の
厳しい現実から、少しづ
つ利用者がふえてきてい
る。愛される広場として
定着も近いと感じた。
(考察)

管理者、職員一同が一
生懸命、日々、高齢者・



いこいの広場らんちゅう

利用者に対応されている。
頼りがいある施設として
一層の充実を望むもので
ある。

江尾診療所

町民の信頼の中、江尾
診療所は推移してきた。
医科9月のレセプト8

80件、歯科レセプトは
384件であった。前年
と比較して横ばいの状態
になっているが、きめ細

やかな対応など医師をは
じめスタッフ一同の評価
は高いと思える。
(考察)

医療機器の新たな導入
などは、町民の健康面
でも大きな効果をだすと思
われる。

医師をはじめ看護師の
体制は長年の懸案事項で
あるが、早急に解決に向
け努力されたい。

ひとこと



江府町地域おこし協力隊
清水 祐花

私の地域おこし

昨年の4月より地域おこし協力隊で働いてます清水祐花(しみずゆうか)です。鳥取県米子市出身で日野川と大山そして日本海に囲まれて育ってきました。工場から出る煙を見ては泣き、川に流れてくるゴミを拾っては持ち帰るような子どもだった私の夢は幼いころから野生動物植物救護・自然環境保全でした。夢をかなえるため必死に働き東京の環境専門学校に入学し二年間様々なことを学びました。しかし絶滅に瀕している多くの動植物は人間の意識・行動が変わらなければ戦場へ何度も送り出すのと同じ変わらない現状、自分の無力さ、そして環境問題の深さ多くの壁に戸惑いを感じていました。人と生き物が共生していく持続可能な環

境作りとは何なのか。そんな時ある動物研究団体の出会いに少し道が開けました。どの自然環境もその地域に暮らし生活をされている住民の方の持続的な支援と協力、理解がなければ成り立たない。その為には地域の方たちとの信頼関係が大切。地域の方たちは地域の自然を一番に知っていらつしやう、頼り頼られ生活されています。専門家や行政がどんなに一時的な保全活動を行っても、その地域の自然環境を永続的に守っていくのは難しいと私は考えています。「地域おこし」と言っても様々な形があります。起業に向けた活動、就農、移住定住促進など。私は江府町の自然環境を町民の方とともに継続した保全活動の基盤の一つでも作りたくと考えています。そして江府町の自然の魅力をもっと多くの方に様々な形で伝えていきたいと思活動しています。昨年は住民の方主体のイベントを行ったり協力隊で設立したNPO法人の活動、江府町の食材を使ったスムージー作り、保育園での自然教室、町外の方向けのクーポン券作成など様々なことを行かせていただくことができました。活動していく中で地域の方々から教わることは多くあります。江府町の豊かな自然の魅力を次世代までつなげていきたいと考えています。今後とも宜しくお願いいたします。



江府町地域おこし協力隊
長田 啓

江府町で本気のアソび

こんにちは。江府町地域おこし協力隊の農業支援班の長田啓(ながた ひらく)です。大学では哲学を学び、前職は保育園での総務事務をしていました。子ども達に囲まれていた前職も、とても幸せなものだったのですが、もう少し自分の手で「ナニカ」を生み出せることがしたい!と思い農業を中心とした江府町の協力隊、農業支援班の活動に志願しました。



江府町に足を踏み入れたあの日も雪が深く、家用車にチェーンを巻いて下駄屋あたりまで散策しました。しんと降り雪の中で車のエンジンを切り、自分の足で立つてみると「なんて静かなんだらう。好きだな。」と感じたのを思い出します。雪の中で見えないもの、雪が降ったからこそ見えるもの。何か面白いものがありそうだなと直感しています。ご存知だったからこそ教えてください!もうすぐ奥大山高原みその仕込み作業が始まります。美用で何十年もお味噌を仕込んでこられた先生たちに、秘伝のコツを教えてください。3年目に納得できる形を目標に楽しく、アソびたいと思います。



▼ゆく年、そして、くる年を迎えて、健康でいられたナ。今年はどうな事をしようかなと、そんな意欲や希望が湧いて来るのも一年の節目だからでしょう。

▼ただ、過ぎに過ぎるもの、帆かけたる船、人の齡、春、夏、秋、冬

▼あつと言う間に過ぎ去ってしまうものとして、清少納言は、「枕草子」の中で帆掛け船、年齢、そして四季を挙げている。時の流れの速さと、無情を憂う述懐は千年の時を経てもしみじみと心にしみる。

▼年齢を重ねるごとにときの流れが加速していく錯覚に陥るが一日一日を大切にしたいものだ。

越峠恵美子

- 議会広報調査特別委員会
- 委員長 上原 二郎
- 副委員長 越峠恵美子
- 委員 川端 雄勇
- 委員 田中 幹啓
- 委員 川上 富夫